

令和6年度 米百俵プレイス ミライエ長岡 互尊文庫の取り組み

<目的・概要>

利用者ニーズを反映した資料を取り揃え、いつ来ても楽しむことができる空間づくりを行う

- ・利用者ニーズを把握します。
- ・新鮮な資料の収集に努めます。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

1 市民インタビュー・テーマ別書架の運営

市民インタビュー	テーマ別配架の運営
 <p>▲幅允孝氏によるインタビュー</p>	 <p>▲企画棚「民藝と暮らしの道具」</p>  <p>▲テーマコーナーの設置</p>

<実績>

○市民インタビュー：市民の興味・関心や求める図書を知るために開催した。

令和6年10月27日（土）3回開催 各回約4名の参加者

約100冊の本を並べて、ブックディレクターの幅允孝氏が本についてインタビュー形式で普段の読書傾向から互尊文庫の現状の課題を聞き取る。

○テーマ別書架の運営

新しい資料を購入しながら、1年間かけて「ひらめき」の企画棚を更新するとともに、テーマ別書架の運営を行った。写真は10月に更新した、企画棚のうちの1つ「民藝と暮らしの道具」

○テーマコーナーの設置

地域おこし協力隊との連携展示として、業務に関係する本や人生の指針となった本の帯を書いて展示した。あわせて、移住などに関係する資料を展示し、利用者の興味をひく展示を行った。このほか、新潟大学附属長岡小学校、阪之上小学校と授業に関連する連携展示を行った。

<課題・今後の方針>

- ・引き続き市民の図書に関する興味・関心を伺う機会を設け蔵書構築につなげる。
- ・新鮮な資料を収集し、時期にあった企画棚の構築・テーマコーナーの展示を行う

<目的・概要>

気軽に誰でも利用でき、にぎわいを創出する

- まちなかの居心地のよいリビング、憩いのサードプレイスとなるよう環境を整えます。
- 快適で利用しやすい環境づくりに努めます。
- 様々な世代に対応した多様な学習や交流の機会を提供します。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

2 ひとりじかん in ミライエ長岡、1周年記念イベント

ひとりじかん in ミライエ長岡	1周年記念イベント
 <p>▲保育サービスを館内で行う</p>	 <p>7/20 日 21 日</p> <p>セーラー服おじさんの超AI小説研究所 AIと一緒に小説を書いてみよう!</p> <p>セーラー服おじさんとして知られるエンジニア・小林秀章さんと一緒に、AIと会話しながら小説を作る2日間の連続講座です。 開 午前10時～午後4時 関 小学生以上 趣 15組 抽選 関 パソコン、スマートフォン、タブレット端末のいずれか 開 7月1日(月)までに専用フォーム(右)で 関 互尊文庫 ☎ 35・7981</p>

<実績>

○ひとりじかん in ミライエ長岡

昨年の試行して好評であった、ひとりじかん in ミライエ長岡を2か月に3回のペースで開催。施設内でお子さんを預かり、子育て中の方にゆっくりと本を読む時間を提供する(各回10名)。参加者には互尊文庫の利用方法の周知と利用促進のためブックツアーを行う。

○1周年記念イベント

7月20・21日に1周年記念イベントを開催した。

「セーラー服おじさんの超AI小説研究所」 ソフトウェアエンジニア 小林 秀章氏
AIと会話しながら、小説を作る2日間の連続講座

<課題・今後の方針>

- 子育て中の方のニーズは多く、土日にも開催するなどニーズを探りながら方向性を深めていく。
- 引き続きミライエ講演会など定期的にイベントを開催し、にぎわいにつなげる。

<目的・概要>

- 利用者ニーズを反映した資料を取り揃え、いつ来ても楽しむことができる空間づくりを行う
- 積極的な広報活動、情報発信に努めます。
- ICTを活用したサービスの提供でサービスの効率化と利便性の向上を図ります。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

3 インスタグラムでの発信、IC タグを活用した運営

Instagramでの発信	IC タグを活用した運営
 <p data-bbox="280 949 699 981">「いいね！」を見る</p> <p data-bbox="280 987 699 1070">gogo_goson “聞き書き”とは、語り手の話した言葉をそのまま書き留め、語り手が目の前で話しているかのような文章としてまとめる手法です。</p> <p data-bbox="280 1093 699 1176">互尊文庫では「他者理解を育むききがきワークショップ」にて作成した、【ききがき冊子】を展示しています。参加者それぞれが一人の言葉に向き合い、ありのままの言葉を材料に文章としてまとめました。</p> <p data-bbox="280 1198 699 1339">このワークショップでは、聞き書きを通して、デザイン思考で最も大切とされる「他者理解」や「共感性」を実践的に学びました。冊子の文章は長岡市内の企業で働いている人が語ってくれた企業に対する想いや普段の仕事の様子をありのまま表現しており、インターネットサイトや広報誌では見えてこない企業の魅力が伝わってくる内容になっています。長岡の企業で働く一人ひとりの物語をご覧ください。</p> <p data-bbox="264 1361 767 1444">▲12月7日投稿 長岡造形大学大学院と長岡市が主催した、「他者理解を育む ききがきワークショップ」の成果物の展示</p>	 <p data-bbox="895 943 1066 974">▲セルフ貸出機</p>  <p data-bbox="895 1417 1235 1449">▲蔵書点検 ハンディリーダー</p>

<実績>

○Instagramでの発信

互尊文庫Instagramを活用して、イベントや本の紹介の投稿を発信している。令和5年6月8日に初投稿を行い、令和7年1月末現在、約1,100人の方からフォローされている。

○IC タグを活用した運営

初めてのユーザーであっても予約本の受取り、貸出、返却をスムーズに行っており、操作性が良く利便性が向上している。また、IC タグを使用した蔵書点検は1日で4万冊の作業が終了するため、休館日を設けずに月末休館日のみで対応できる。

<課題・今後の方針>

- 若年層へ向けた情報提供として、引き続きInstagramを投稿し、積極的な広報に努める。
- ICTを活用した利便性の高いサービスの周知に努め、利用につなげる。